

東海工業専門学校講演会報告

日時：令和3年5月10日（月）午後4時00分～午後5時00分

場所：東海工業専門学校金山校

去る5月10日、愛知会広報活動の一環である「土地家屋調査士ガイダンス」のため、講師の近藤正行広報委員長、藏座卓也広報部長と私の3名で東海工業専門学校金山校に伺いました。

参加者は、同校の測量科、測量研究科、測量設計科の1,2年生の総勢90名程度の学生です。学生と言っても専門学校ですから、10代、20代ほどの若者もいれば白髪混じりの男性もみえました。



学生を前に講義する近藤委員長

当日、学生の皆さんは現場実習を行っておりその上、通常より1時限延長した7時限目のガイダンスに出席したので、とても疲労感を漂わせていたように感じました。

講師の近藤委員長の講義内容は、自身の経験からなぜ土地家屋調査士という職業を選択したのか。また、人生の現在地から目的地についてという壮大なテーマもありました。

講義が始まり、だんだんと自然に背筋が伸び、とても集中していく参加者の様子が印象的で、ノートに板書の文字を書き留めたり、講師の質問に回答したりしていました。引率していた先生方もレジュメをください。と、席に座り講義に聞き入っていました。

若い生徒に限らず、私たちも日々なにかしらの選択を繰り返し行っています。様々な選択肢のなかで“目的”という根幹の部分があれば、いずれを選択したとしても最後まで責任を持ってやりきる事ができるでしょうか。

今回のガイダンスでは、生徒に土地家屋調査士という資格や業務という選択肢を与えるとともに、現在地から目的地（動機付け）をしっかりと認識できるよい機会になったと思います。最後の挨拶に藏座部長から、学生に対し「ぜひ、私たちの仲間になってください」といった締め括りも土地家屋調査士らしい一面ではないかと微笑んでしまいました。

（広報部理事 森田正樹）

